

令和3年度 第2回江別市行政改革推進委員会 会議録（要点筆記）

日 時：令和3年11月9日（火）午後1時25分～午後3時27分

場 所：江別市民会館21号室

出席委員：千里政文委員長、吉川哲生委員、伊藤祥子委員、白川典子委員、
神保正志委員（計5名）

欠席委員：鈴木貢委員、野村奈津子委員（計2名）

事務局：政策推進課 水口参事、北島主査、山口主任

担当課：健康推進室参事（子育て世代包括支援担当） 竹内参事、眞鍋係長
教育支援課 清水課長、伊藤主査

子育て支援室 東室長、子育て支援課 本田係長

傍聴者：1名

会議概要

1 開会

2 議事

（1）行政評価外部評価ヒアリングについて

①行政評価外部評価ヒアリング

ア 子育て世代包括支援事業

健康推進室参事（子育て世代包括支援担当）から説明

【質疑】

○千里委員長

資料1ヒアリング予定事項一覧に沿って質疑を始めたい。

まず、事務事業評価表の成果指標2についての質疑が出ている。

伊藤委員から趣旨を簡単に説明していただき、その後、所管より説明願う。

○伊藤委員

成果指標2は、どのような対象者に対して、どのような形で調査した数字か。

○健康推進室参事（子育て世代包括支援担当）

成果指標2は、事務局である政策推進課が毎年5月に実施している市民3,000人を対象としたアンケート調査で把握した数字である。このアンケート調査には、中学生までの子どもを持つ方に対する「江別市は子育て環境が充実していると思うか」という設問があり、これに対して「はい」と答えた割合を「子育て環境が充実していると思う保護者の割合」として取り扱っている。

○千里委員長

他に質疑、意見はないか。

○神保委員

この事業は、令和元年度から始まっているが、対象指標の令和元年度実績が「0」という表示は有効数字なしと受け止められると思う。江別市の統計書では、バーや三点表示な

ど扱いがある程度決まっていると思うので、合わせた方がよいのではないか。

また、令和元年度実績は0だが、意味を持たせて0という表示にしているのか。

○事務局

1点目について、この事務事業評価表はシステムを利用して作っているものである。このシステム上の都合により、「0」となっている。

○健康推進室参事（子育て世代包括支援担当）

成果の実績が0になっていることについて、子育て世代包括支援事業は、令和元年6月に補正予算が成立し、令和元年8月から事業開始となった。令和元年度の事業費は、令和2年度の事務事業評価表作成時に政策推進課で入力して各課で確認することになっていたが、双方の確認不足による記載漏れである。

なお、この事業費の推移の令和元年度実績は、事業費（A）が9,635千円、正職員人件費（B）が7,687千円、総事業費（A+B）が17,332千円となっている。事業費の推移を確認するに当たっての重要な実績なので、今後このようなことがないよう注意していきたい。

○千里委員長

この事業は今後も重要になる。このほか、「妊娠期支援プランの策定率が100%という実績は素晴らしい」という意見が出ていた。

イ スクールソーシャルワーカー事業

教育支援課から説明

【質疑】

○千里委員長

資料1ヒアリング予定事項一覧2（1）活動指標1と2について、伊藤委員から説明願う。

○伊藤委員

事務事業評価表の活動指標2の令和2年度実績は1,099件、成果指標1は181件と記載があるが、その差である918件については支援の必要がなかったということか。

○教育支援課

支援ケース件数181件は、年間に支援した児童生徒数であり、181件は181人と考えていただきたい。これに対して、延べ相談支援件数1,099件は、181人に対して延べ1,099回の支援を行ったということになる。具体的な内容として、保護者面談、児童生徒の授業観察、ケース会議の開催など、全て延べでカウントしている。

○千里委員長

続いて、（2）事業内容について、伊藤委員から説明願う。

○伊藤委員

スクールソーシャルワーカーの支援とは、具体的にどのようなことを行っているのか。

○教育支援課

はじめに、支援が必要な児童生徒に関して、学校と保護者などで教育相談を重ねていく

ことになる。その上で、医療につなぐ必要がある場合など、学校だけでは解消が難しい場合や、家庭が抱える課題が複雑な場合に、教育委員会に対してスクールソーシャルワーカーの支援依頼が来る。その後、学校と保護者の面談にスクールソーシャルワーカーが同席することや家庭訪問などを行い、保護者から家庭などにおける子どもの状況を聞き、課題の解消を図るため、必要に応じて医療や福祉の関係機関との連携に関する提案などを行う。例として、福祉サービスの利用の調整のほか、医療機関の受診調整や同行なども行う。ケース会議や保護者面談を重ねつつ支援を継続し、児童生徒の状況の安定が見られた場合、学校の日常の対応に戻す流れとなっている。

○千里委員長

スクールソーシャルワーカーは、基本的に社会福祉士の資格を持っていると思うが、臨床心理士などの専門職は採用しているのか。

○教育支援課

江別市の場合、社会福祉士または精神保健福祉士の資格を持った職員としている。

○神保委員

令和元年度と令和2年度では相談件数は減っているが、支援する児童生徒が増えているという特徴がある。新型コロナウイルス感染症の流行があり、相談する件数が少なくなったことは理解出来るが、いじめが出てきたなど、支援する児童生徒が増えた特徴があれば教えてほしい。

○教育支援課

令和元年度と令和2年度を比較して延べ相談支援件数が減少している理由として、事業開始から10年経過しており、学校にスクールソーシャルワーカーが浸透してきたため、連携がスムーズになってきたほか、ケース会議の回数がこれまでより減ったことについてもスムーズに支援できていることが挙げられる。それに加え、新型コロナウイルス感染症の影響で対面での面談、打合せ、家庭訪問などを減らさざるを得ない状況があったことも減少した理由となっている。

支援ケース件数が増えている理由について、令和2年度は学校と保護者が対面でつながる機会が非常に減少し、学校での家庭環境の判断が難しく、学校だけでの支援が難しい例が増えていたと考えている。また、臨時休校、部活動や学校行事が制限され、子どもだけではなく保護者もストレスを抱えて過ごした1年であった。それに起因する問題、不登校などが増えている。

加えて、学校とスクールソーシャルワーカーの連携が図られてきたので、先生からスクールソーシャルワーカーへの相談が年を追うごとに増えていることも影響している。

○千里委員長

スクールソーシャルワーカーが3人で行っているのが、大変だと思う。子どもと親の負担が非常に大きく、今後も増えると予想されている。

○神保委員

事業を取り巻く環境変化には、新型コロナウイルス感染症の関係について記載がない。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きいので、環境変化の一つとして何ら

かの形で触れておいた方がよいと思う。

○千里委員長

次に、支援内容について、伊藤委員から説明願う。

○伊藤委員

スクールソーシャルワーカーだよりに関して、事業内容説明書を見ると、児童生徒や保護者、先生の様々な困りごとがあるが、それぞれの相談割合を教えてください。

○教育支援課

スクールソーシャルワーカーが支援に関わるケースは、学校だけでは対応が難しいケースである。1人の児童生徒がいた場合に保護者、学校も支援内容や方向について困り感を持っている現状があるので、この割合については概ね1対1と考えている。

○伊藤委員

スクールソーシャルワーカーは、学校担当が2人、すぽっとケア担当が1人で担当しているが、配置人員はこれが適正だと考えているか。

○教育支援課

令和2年度のスクールソーシャルワーカーだよりでは、学校担当が2人、すぽっとケアが1人という形で配置している。令和2年度についてはこのような配置だが、最終的に3人で江別市内の小中学校25校を担当していく形を考えている。3人でケースの件数を分担することになるので、今後、相談件数が増えた場合でも3人で対応することが出来ると考えているので、現状では配置人員は適正と考えている。

ウ 放課後児童クラブ運営費補助金事業

子育て支援課から説明

【質疑】

○千里委員長

放課後児童クラブ運営費補助金に関するヒアリング予定事項はないが、本事業について各委員から質疑はあるか。

○神保委員

両親が働いている状況の中で、放課後児童クラブの役割は大きいと考えているが、例えば、利用料金の負担が重いため、放課後児童クラブに預けられないなどの実態があるのではないかと考えている。そのため、利用料金の水準や年々の動きを教えてください。

○子育て支援課

民間施設なので運営方針や地域の実情によって一律ではないが、メインとなる保育料は概ね5,000円から7,000円に設定している。その中には月々のおやつ代や教材費が含まれている施設が多い。これらの保育料については、数年値上げしておらず、保育料を維持している状況である。

○神保委員

子どもを預かる時間は何時までか。

○子育て支援課

施設によって違うが、午後5時や午後6時までが多く、ここまでが基本料金となっている。それ以降も預かってほしい場合は、延長保育料が加算されるが、午後7時頃まで預けることが可能となっている施設が多い。

○神保委員

経済的に苦しい家庭でも利用出来るような取組をお願いしたい。

○千里委員長

3点伺いたい。

1点目、対象者は小学生となっているが、学年の制限はあるのか。

2点目、利用時間について、施設によって延長の時間は変わるのか。

3点目、保護者の仕事の関係で、自宅から遠い施設に預けることは可能なのか。

○子育て支援課

1点目、小学1年生から6年生が対象だが、中学年や高学年は、習いごとや、友達と過ごすことが増えてくるため、利用実態は小学1年生から3年生が主になっている。

2点目、利用時間は、基本的に午後5時から6時で設定しているところが多く、施設によっては15分単位や30分単位で午後7時くらいまで延長という形にしている。

3点目、放課後児童クラブは基本的に児童が自分で行き、自分で帰るので、校区内の放課後児童クラブを使用することが多い。ただし、一部の施設では送迎サービスを行っているので、校区外に通っているケースもある。

○千里委員長

他に質疑、意見はないか。

○吉川委員

19ページの実績の内訳の施設整備等補助は、令和3年度に新規3団体に600万円と記載されているが、21ページには2団体が新規開設となっている。また、17ページでは民間放課後児童クラブが3か所増えている。この関係はどうなっているのか。

○子育て支援課

19ページの施設整備等補助の3団体は、令和3年度に向けての新規開設準備として、新たにオープンした2施設と定員拡大を行った1施設の計3施設となっている。

17ページの事務事業評価表に関しては、令和3年度当初には21施設を予定していたが、結果的に二つの施設のみ新規オープンとなり、予定と実績の乖離が出た。

○吉川委員

当初は予算的に見込んでおり、数の実績としては2施設ということだったということで理解した。

○千里委員長

事業内容説明書の中で補足があった方が分かりやすいと感じた。

②意見交換

【質疑】

○千里委員長

全体を通して、意見や質疑がある際は発言願う。

○神保委員

本日3事業のヒアリングを行ったが、各事業を所管している部署はどこなのか。学校教育の関係と健康や福祉の内容では所管が違う。この中には入っていないが、子どもをフォローするセクションがどのような関係になっていて、横のつながりでどのように全体を見ているのか。

○千里委員長

似た事業内容でも所管が違っている。今回は外部評価という形だが、元の行政改革推進委員会に関連している。

部局間の横のつながりは上手くいっているのか。

○事務局

本日評価していただいた事業の所管は、子育て世代包括支援事業は健康福祉部、スクールソーシャルワーカー事業は教育部、放課後児童クラブ運営費補助金は健康福祉部と分かれている。学校に関連する教育を所管するのが教育部、それ以外の支援や見守りという支援をしていく施策を展開するのは健康福祉部が担っている。

基本的に、教育部でも健康福祉部でも支援が必要な子どもや保護者は同じ方が多い。記載はないが、障がい福祉の観点では療育が必要な子どもは小中学校にも通っているのも、同様の横の連携が重要になる。

以前、障がい福祉に関わっていたが、日頃から教育部、子育て支援課ともどのような支援を行うか横の連携を図っていた。そのため、子どもを支援するという場面においては、会議なども頻繁に行い、支援に漏れが出ないように各部が連携して取組を行い、それぞれの施策を展開しているものと考えている。

○神保委員

スクールソーシャルワーカーの仕事の中に、いじめ、不登校、ネグレクト、虐待、DV、貧困などがある。教育部が所管しているスクールソーシャルワーカーなので小中学生が対象となるが、学校から要請があった場合には、スクールソーシャルワーカーに応援を頼んでいると思う。しかし、いじめ、ネグレクト、虐待などは小中学校だけではなく、子ども全体を含めて大変な状況が出てきている。受け身ではなく、プッシュ型でスクールソーシャルワーカーが見守り、そのような状況がないか、情報の収集に漏れがないか、自分たちから能動的に動くことが重要だと思う。

○事務局

支援を行う際には受け身ではなく、積極的に外に出て問題が生じていないか確認する活動が重要視されている。本日いただいた神保委員の意見は担当の教育支援課だけではなく、本日出席した健康福祉部の各担当課にも伝えたい。

○千里委員長

確認だが、スクールソーシャルワーカーは小中学生が対象か。高校は北海道の所管だと思うが、江別市に住んでいる高校生はどのような扱いになっているのか。

○事務局

北海道が支援機関になっていることもあるが、経験上虐待などは小中学生に限らず相談を受けていた記憶がある。基本的には北海道と連携して動くが、相談や話を聞くことは北海道が行うということではなく、まず話を聞いた上で連携して支援策を講じていく。

○千里委員長

この中には入ってこないのか。

○事務局

そのとおりである。

○吉川委員

高校に行っていない若者もいるし、高校になると様々な地域から子どもが集まってくるため、地域単位で考えるのは難しいと思う。

○千里委員長

義務教育かどうかもある。

大きな部分でずれがないか意見が出てきた。

他に質疑、意見はないか。

○伊藤委員

スクールソーシャルワーカーの人数について、担当課は適正と言っていたが、小中学校25校をすぽっとケアの先生を含めて3人は適正なのか。

○事務局

所管課は現場の状況を常に確認していると思うので、事務局から何人が適正とは言えないが、人数的にこれだけの相談件数を抱えて個別の支援を行っているので、3人では疑問を持つことも当然だと思う。改めてスクールソーシャルワーカーの適正な人数について、他の市町村の状況なども踏まえて確認してほしいと伝える。

○神保委員

スクールソーシャルワーカーは、江別市教育委員会教育支援課の専属メンバーなのか。または、兼業でこちらの職務を担当しているのか。それにより、スクールソーシャルワーカーの発言のしやすさなどに関係すると思う。

○事務局

教育部で任用している会計年度任用職員だと記憶している。会計年度任用職員だが、社会福祉士または精神保健福祉士の資格を有する方でスクールソーシャルワーカーを募集しており、教育部から募集して直接任用するので、派遣などではない。

○神保委員

スクールソーシャルワーカーの報酬は、5,822千円と記載されている。年齢やキャリアなどによって差があると思うが、これだけで生活していると理解してよいか。また、兼業は認められているのか。

○事務局

この中では1人の金額は分からない。また、この報酬だけで生活しているかについては家族がいるかどうかなど様々な要素があると思うが、事務局では把握していない。

○千里委員長

いじめの場合、臨床心理士やスクールカウンセラーが出てくると思うので、そちらと連携しているように感じた。

○事務局

担当課ではないので、事務局が記憶で答えている部分がある。本日答えた点については各担当課に改めて確認し、事実と異なれば各委員に連絡したいと考えている。

○千里委員長

細かいいじめなどは3人のスクールソーシャルワーカーでは手に負えないと思い発言させていただいた。

他に全体を通して、意見や質疑がある際は発言願う。

○神保委員

令和2年度から令和3年度にかけて新型コロナウイルス感染症の大変な状況の中で事業を推進しているが、それに対して平成30年度などの一定の基準から実績の上がり下がりを書くのは難しいと思う。全体として令和2年度はコロナ禍でほとんどの事業がこれまでの流れと大幅に変更せざるを得ないため、それを整理した形で評価しなければならない。新型コロナウイルス感染症の状況が抜けること、また、新型コロナウイルス感染症のみで他の内容が抜けるなど、誤解した捉え方がされることはあってはならない。

○千里委員長

コロナ禍という特殊な状況なので、今回の3事業にかかわらず説明が必要だと思う。

それでは、本日ヒアリングを行った3事業に対する意見交換を行う。

まず、子育て世代包括支援事業について、意見や改善案がある際は発言願う。

○伊藤委員

母子手帳交付時に面接を行い、支援プランを作成することは素晴らしいと思うが、その後にある産後ケア事業について、利用出来る江別市内の施設が1か所と少ない。地域的なものもあり大変だと思うが、さらに増えるとよい。

○白川委員

現在、江別市では出産出来る場所が江別市立病院しかなくなっている。その背景から民間の病院や個人病院で出産出来ないのでは、産後ケアが利用出来なくなっていると思う。

母子手帳交付について、年間700人ほど産まれているうち大麻地区では約4分の1が産まれている。しかし、大麻出張所で母子手帳を交付出来ないことは、大麻地区に住む妊婦にとって大変である。市役所または保健センターに行かなければならないので交通の便などを考えると、予約制や月2回など大麻出張所でも交付を受けることが出来る行政サービスが出来ればよい。

○千里委員長

大麻出張所では出来ないのか。

○白川委員

現状、大麻出張所では出来ない。

特に、2人目以降は子どもを連れていくことが多く大変だと思う。

○千里委員長

江別市の産婦人科は市立病院しかないのか。

○白川委員

出産は市立病院だけである。

○千里委員長

昔はそれもなかった。

○白川委員

病院に関してはどうこうできる問題ではないと思う。

○千里委員長

他に質疑、意見はないか。

○神保委員

事務事業評価表及び事業内容説明書2ページ成果動向及び原因分析は、どちらかといえば上がっているに印がついているが、理由根拠には、令和2年度についてコロナ禍により「必要なサービスや支援が十分に受けられたとは言えない状況にあった」と記載がある。また、1ページの成果指標2子育て環境が充実していると思う保護者の割合では、令和元年度実績の56.2%から50.4%に下がっている。

この状況を合わせると、成果動向及び原因分析について、どちらかといえば上がっているに印がついていることは苦しいのではないか。コロナ禍によって上げることができなかったとして成果向上余地を大にする雰囲気だと思う。しかし、このような書かれ方でもやむを得ないと感じている。

○事務局

新型コロナウイルス感染症の影響は当市においても多分にある。その中でこの事業に対する評価については、所管課が事業全体を通してどう考えているか記載している。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響があった場合にはその旨を書くように伝えているので、このような記載になったと思う。

1ページの成果指標2は、令和2年度実績で下がっているが、子育て環境が充実していると思う要素の中には子育て世代包括支援事業についての感想もあるが、様々な要素も加わりこのような状況になっていると思っている。

江別市は、全国的に見て転入者や子どもが増えている数少ない自治体なので喜ばしい反面、待機児童が増えるなどの課題もあるので、総合して満足度が下がったという結果になったと考えている。

○千里委員長

新型コロナウイルス感染症で大変なのは分かるので、単純な数字では下がっているが、事業全体としては実績が上がっているということで理解した。このような意見があったことは伝えてよいが、最終的な判断は任せる。

他に質疑、意見はないか。

(なし)

○千里委員長

次に、スクールソーシャルワーカー事業について、意見や改善案がある委員は発言願う。

○吉川委員

スクールソーシャルワーカーの相談件数が増えることで成果が出たということは複雑である。相談の数が増えることは困っていることが増えることになるので、その根本を解決していかなければならない。相談が増えて、それを解決することで成果が上がっているとすることは矛盾しているので、合わせて考えていただきたい。

○事務局

成果の在り方は所管課に伝えるが、スクールソーシャルワーカーが浸透すると本来埋もれていた声が聞こえるようになってきたという意味であり、相談件数が増えたことはより捕捉出来るようになったということが一つの考え方としてある。

○千里委員長

埋もれていた部分が見えてきたことは成果かもしれない。しかし、増えること自体が社会的な問題であり、新型コロナウイルス感染症の影響で出て来ることは予想していると思う。全体的な数になるが、子どもの数が減っているにもかかわらず相談が増えていることは問題が増えていることであるので良いことではない。表記の仕方について意見が出たことを伝えていただきたい。

○事務局

相談支援の件数の増減は永遠のテーマである。どちらの視点からも善し悪しの見え方が出来るので難しい。

伊藤委員からも話があったようにスクールソーシャルワーカーの配置人数3人が抱え得る支援件数がどれくらいなのか考えながら動いている。助けが必要な児童生徒に対して支援することにより相談件数が大きく増えることになれば、さらにスクールソーシャルワーカーの人数を増やす検討につながることもあるのではないかと考える。

○伊藤委員

そのほかの意見として、手段の欄に記載されている「課題を抱える児童生徒の置かれている環境への働きかけ」という表現が抽象的だと感じる。

また、関係機関はどこなのか。スクールソーシャルワーカーだよりには子育て支援課や児童相談所といった表記があるが、もう少し分かる形にしてほしい。

○千里委員長

他に質疑、意見はないか。

(なし)

○千里委員長

次に、放課後児童クラブ運営費補助金事業について、意見や改善案がある委員は発言願う。

(なし)

○千里委員長

全体を通して、意見や改善案がある委員は発言願う。

(なし)

○千里委員長

会議終了後に各委員から意見がある場合は、事務局に伝えることは出来るか。

○事務局

基本的には委員会内で委員の共通認識のもと発言して確認していただくことが望ましいが、後で意見があるという話があれば事務局に意見をいただいた後、各委員に伝えるという手法も可能である。

○千里委員長

本日ヒアリングを行った3事業に対する当委員会からの意見などの取りまとめについて事務局に依頼したいと思う。

本日のヒアリングの成果の取りまとめ方法について、事務局から説明願う。

○事務局

本日の結果の取りまとめ方法について説明する。

本日の記録については、発言の趣旨を損なわない程度に要約した上で議事録を作成し、各委員の確認後、公開する予定である。

ヒアリングの結果については、意見交換の結果を事務局において取りまとめ、令和3年度行政評価外部評価報告書（案）を作成する。議事録及び報告書については、11月中に第1稿を作成し、各委員に郵送する予定である。

その上で、次回の第3回行政改革推進委員会において、内容を審議いただくことを想定している。

（2）令和4年度外部評価について

①対象事業の選定

○事務局

外部評価は、総合計画の戦略ごとに行うこととしている。三つの戦略のうち、昨年度は戦略3、今年度は戦略2を行ったため、来年度は戦略1を行う必要がある。

戦略1には、（1）と（2）の二つの具体的施策があり、令和2年度第1回の委員会で協議いただいたとおり、原則としてそれらから一つずつ、計2事業を選定していただきたいと考えている。

また、過去に外部評価を行っていない事業を優先して選定いただきたいと考えているので、審議の際にはご配慮をお願いしたい。

○千里委員長

戦略1のうち、二つの具体的施策の中から一つずつ、過去に行政評価を行っていない事業を優先して選定するということだが、そうした考えで進めてよいか。

（了）

○千里委員長

過去に外部評価を行っていない事業を優先し、（1）地域資源の発掘と活用の中からは、観光振興計画推進事業と江別アンテナショップGET'S（ゲッツ）管理運営事業の2つが候補となるので、事務局から説明願う。

○事務局

観光振興計画推進事業と江別アンテナショップGET'S（ゲッツ）管理運営事業について説明

○千里委員長

観光振興計画推進事業は、江別市における観光全般に関する事業を展開していることから、外部評価を行うのに、よりふさわしいと感じたが、各委員いかがか。

（了）

○千里委員長

それでは、（１）地域資源の発掘と活用の中からは、観光振興計画推進事業を選定する。続いて、（２）農畜産物の高付加価値化には、都市と農村交流事業と江別農畜産物ブランディング事業の二つの事業があるので、事務局から説明願う。

○事務局

都市と農村交流事業と江別農畜産物ブランディング事業について説明

○千里委員長

江別農畜産物ブランディング事業は、農家に補助金を出さず事業になっている。江別市は農業、畜産が盛んなことを考えると都市と農村交流事業について、外部評価を行うのに、よりふさわしいと感じたが、いかがか。

（了）

○千里委員長

それでは、令和４年度の外部評価対象事業を確認する。（１）地域資源の発掘と活用は観光振興計画推進事業、（２）農畜産物の高付加価値化は都市と農村交流事業の二つの事業でよいか。

（了）

3 その他

（１）令和４年度行政評価外部評価の実施スケジュールについて

○事務局

本日の議事録及び外部評価報告書については、１１月中に第１稿を作成し、委員に送付する。外部評価報告書については、１２月に第３回目の委員会を開催し、審議の上で決定いただきたいと考えている。

なお、現時点では対面での開催を予定しているが、新型コロナウイルス感染症が再拡大した場合には、昨年度と同様に書面での開催を検討している。

令和４年度のヒアリングについては、今年度と同時期の開催を予定している。また、具体的な会議日程は時期が近くなったら、改めて相談させていただく。

（２）その他

なし

4 閉会